

多様な世代や属性の人が集い、孤独の予防を目指す自由価格制のコミュニティ「タノバ食堂」【民民連携】

事業の実施機関	TanoBa合同会社
対象地域	東京都世田谷区野沢エリア

連携先の実施機関	
----------	--

TanoBa合同会社（タノバ食堂の事業運営者）、宗教法人 龍雲寺（タノバ食堂の会場提供パートナー）、野沢2丁目町内会（参加者への案内／ネットワーキング）、坂ノ途中（地域共創パートナー※余剰野菜の提供）

取組の内容	
-------	--

https://tanoba.jp/

取組の実施期間	2023年5月に実証実験を開始 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000118826.html 2023年8月にボランティア料理人の募集を開始 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000118826.html 2023年10月から「タノバ食堂」の月1定期開催を開始 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000118826.html 2024年3月にTanoBa合同会社、創業1周年記念イベント開催 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000118826.html 2024年9月に「タノバ食堂」1周年を機に地域共創パートナーと提携 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000118826.html
取組の内容	食事を通じて広く緩やかなつながりを生み、望まない孤独を予防する場所「タノバ食堂」は、普段接することのない縦の世代間の人々が、温かい食事を囲むことで、新たなつながりを創り、孤独の予防装置となることを目指しています。自由価格制、ボランティア料理人、無償で開催場所や、余剰野菜を提供する地域共創パートナー達で成り立っているのが特色です。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	実験結果から、安定して食堂が開催できる場所（スポンサー）と、無償で料理を作ることを楽しむボランティア料理人の集めること、タノバ食堂の趣旨に理解や共感をした参加者の3つを得ることでした。まず、野沢龍雲寺が場所の提供を快諾して下さり、知り合いのボランティア料理人の参加が決まり、町内会の協力を得て、定期開催をすることができました。
取組の効果	2023年10月より開始し、述べ約300人以上（2025年2月時点）にご参加いただき、毎月1回の定期開催を継続中です。参加者、ボランティア料理人、地域共創パートナー、運営によって成立し、活動の透明性を担保することを目的に、毎月の収支等を公開しています。また、収支も安定し経済的な循環によって持続しています。また、参加者のアンケートの満足度は、通算で5点満点中で平均4.33点という評価もいただいています。

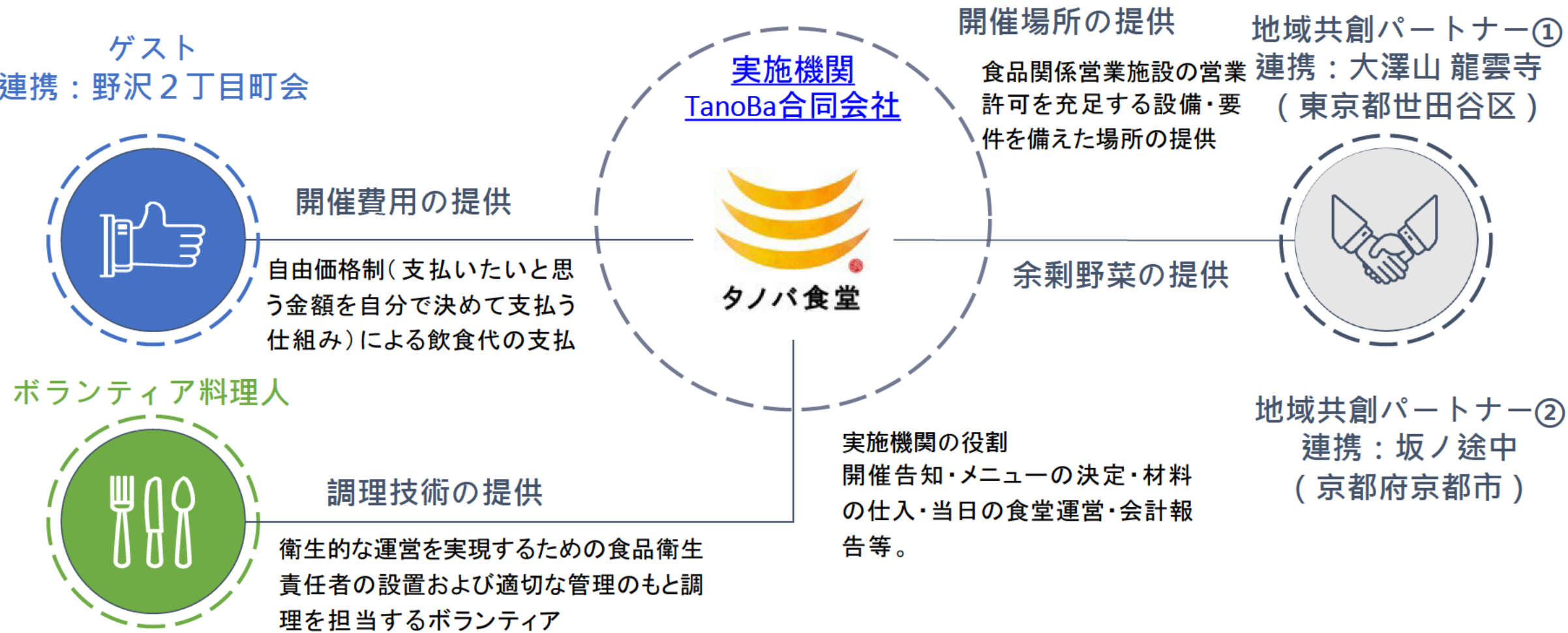
ライフステージの区分

[illegible]



食事を通して広く緩かなつながりを創る場所 【タノバ食堂】

毎月1回、地域に根ざした所定の場所で営業される食堂型のコミュニティ。コミュニティメンバーがそれぞれの役割を引き受けることで、持続可能な経済循環を実現する。食事を通して、地続きで、顔の見えるリアルなコミュニティが孤独・孤立を予防する。



ママの孤独孤立防止ドットトリボンママフェスタ【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人子育てパレット
対象地域	東京都足立区

連携先の実施機関

足立区教育委員会/子ども政策課（共催）、社団法人ママの孤立防止支援協会

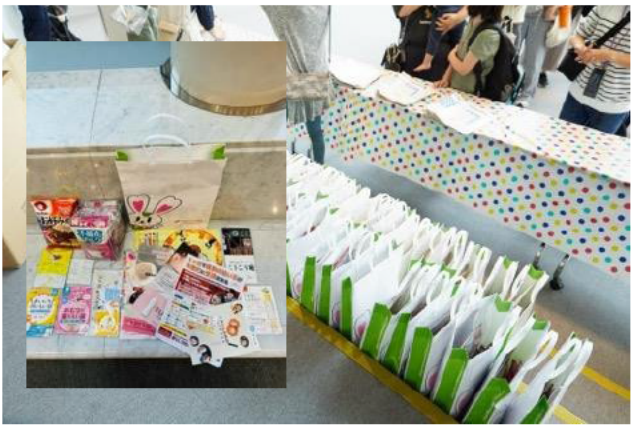
足立区支援管理課、足立区子ども施設指導・支援課、足立区中央図書館、こども家庭部、足立区交通対策課、医療法人社団 福寿会 福寿会病院、株式会社Peby Style、那須歯科医院グループ、生活協同組合コープみらい、株式会社ライフバリュークリエイション、ソニー生命保険株式会社、株式会社HITOMINA、一般社団法人チョイふる、城北ヤクルト販売株式会社、ホテルベルクラシック東京（ブース出店）、クリロン化成株式会社、株式会社 アメージングデザイン、オタフクソース株式会社、株式会社SoooooS.（スース）、株式会社TOKIO Lab、二葉乳児院、株式会社りぶはあと、株式会社リッチェル、ラッキー工業株式会社、コンビ（HITOMINA）、株式会社ベルタ、（公社）全日本不動産協会東京都本部（商品協賛）

取組の内容

取組の実施期間	2024年1月～5月
取組の内容	◆内閣官房「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」が制定した孤独・孤立防止強化月間の5月にママフェスタを開催しました。 テーマとして「ママの孤独・孤立防止」を掲げ、行政や地域の企業・団体/官民連携で「母親なんだから」という言葉に苦しめられ、弱音が吐きにくい社会を変え「ママでも辛い時きつい時に声を出していいんだよ」という風潮を社会に根付かせるためのイベントとしました。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	イベントに賛同していただいた企業様に出展料という形やイベント運営費へのご寄付で賄っておりますため、PRツール作成と宣伝費用から備品に至るまでの経費がかかり、資金源確保に苦労しました。 出展ブース数も限りがあるため増やすには使用スペースも増やさないと意味がありません。また、集客コンテンツにも資金がかかるため、予算内でできることが思いとは別に限られてしまいました。
取組の効果	子育て世代の孤独感や孤立感への理解は社会を通して理解が進んでおらず、「母親なんだからきちんと子育てするのは当たり前」「弱音吐くなんて母親失格」という暗黙の理念に苦しむ実態を改善する一歩となる。当事者には、「辛い時は声をあげていいよ!」と寄り添い共感し、必要な支援やサービス、人に頼り孤立・孤独の解消、周囲の方へは意識改革を促し声をあげた時は優しく寄り添う価値観を持つような地域社会形成へとつながる。結果健全な子どもが育つ未来へ。

ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
	●	●									● 1



実施体制

官民地域連携



事業の実施機関	社会福祉法人千年会
対象地域	弘前市

青森県社会福祉協議会（あおもりこどもの居場所ネットワーク：情報提供、食材・物品等の提供、研修会等の実施）、弘前市役所（市民協働課：弘前市市民参加型まちづくり1%システム支援補助金の活用（補助金）、広報の連携⇒市HPやSNS、公共機関へのチラシの配布等）、一般社団法人みらいねっと弘前（ひろさき子どもの居場所ネットワーク：情報提供、フードバンクの活用等）、原ヶ平町内会（広報での連携、民生委員との連携（地域の弱者へのピンポイントでの情報提供 等）、ひろさきボランティアセンター（ボランティアの募集）、弘前市千年交流センター（会場の提供）、認定特定非営利活動法人全国子ども食堂支援センターむすびえ（情報提供、一般企業・団体等からの寄贈等の仲介 等）

<https://www.chitose-kai.or.jp/pages/129/>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											● 1

楽しく食べて
楽しく学ぼう

みんなの食堂

おいでーる



「みんなの食堂」おいでえーる実施体制

「みんなの食堂」おいでえーるは、栄養バランスに優れた食事の提供、健康的な食生活の支援や孤食の防止、食文化の伝承等の地域における食育の推進を図るため、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代の住民が食事を共にする「共食」の場を提供する活動です。「受け手から支え手へ食育を通じての地域の活性化・地域共生社会の実現」を目標に地域の人たちが地域で活躍できる活動を目指しています。

弘前市

・ひろさきボランティアセンター

<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/>

・弘前市市民参加型まちづくり1%システム支援補助金の活用

<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/ichi-per/>

・弘前市千年交流センター

<https://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyou/shi-setsu/2015-0126-1736-26.html>

参加者の中から、ボランティアでの参画

ボランティアの募集・仲介

ボラン
ティア

学生（高・大）、一般、参加者からのボランティア

補助金の活用に付随して広報、研修、情報提供等

会場として活用（調理室・和室・体育館）減免制度を活用し無料で使用

参加者

毎月2回
金曜：大人
土曜：子ども（親子）

原ヶ平町内会

民生委員などを通じて居場所を必要とされる方へのピンポイントでの情報提供～参加同行など

情報等提供
＊直接一般企業・団体等からの情報提供、研修案内等

回覧板などでの案内依頼

認定特定非営利活動法人全国子ども食堂支援センターむすびえ

情報等提供
＊一般企業・団体等からの情報

青森県社会福祉協議会（あおりこどもの居場所ネットワーク）

http://ibasyo.aosyakyo.or.jp/?_gl=1%2A14t7j2m%2A_ga%2AOTg1MzYxMi4xNzI1NTgxMTY4%2A_ga_ZTLKB8RGH%2AMTcyNjUzNzk3OS4yLjAuMTcyNjUzNzk3OS4wLjAuMA..

情報等提供
＊一般企業・団体等からの情報やむすびえからの情報を仲介、研修案内等

一般社団法人みらいねっと弘前（ひろさき子どもの居場所ネットワーク）

<https://mirainet-hirosaki.info/>

情報等提供
＊一般企業・団体等からの情報、フードバンク活用、ネットワーク会議等

「みんなの食堂」
おいでえーる

運営（人・もの・ノウハウ等を地域へ）

社会福祉法人千年会

その他スポット連携

・地域包括支援センター⇒5月の強化月間の際に連携

<https://www.chitose-kai.or.jp/files/lib/3992/202409171201123489.pdf>
https://www.chitose-kai.or.jp/pages/123/detail=1/b_id=520/r_id=1865/#block520-1865

・警察署（弘前・県警）との連携で特殊詐欺被害防止

https://www.chitose-kai.or.jp/pages/123/detail=1/b_id=520/r_id=1841/#block520-1841
https://www.chitose-kai.or.jp/pages/123/detail=1/b_id=520/r_id=1824/#block520-1824

パートナーが性被害を経験した男性向けチャットボット「Two Drops」 【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人しあわせなみだ
対象地域	全国

連携先の実施機関
特定非営利活動法人しあわせなみだ（事業実施）、法政大学現代福祉学部 助教 岩田千亜紀（監修）、株式会社HeeHaa 代表取締役 朴圓燮（チャットボット開発担当）、株式会社wafactory 代表取締役 南相旭（チャットボットデザイン担当）

取組の内容	
https://twodrops.shiawasenamida.org/	
取組の実施期間	2024年6月26日～2024年7月25日 1か月
取組の内容	パートナーが性被害を経験した男性の疑問に、しあわせなみだが作成したデータをもとに GPTモデル（Azure OpenAI Service 提供）を利用して、チャットボット形式で回答します。やり取りを通じて、自分を振り返るヒントを提供します。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	チャットボットの開発ならびに運用には、費用がかかります。開発にはプロボノで関わっていただき、運用費はマイクロソフトが提供する非営利団体向けのプランを利用することで、費用を抑えることができました。しかし、サービスを継続して提供するには、資源が不足しているため、1か月限定のリリースとなりました。
取組の効果	利用者の76%が「必要な情報を得られた」、また75%が、「Two Dropsをパートナーが性被害を経験した男性に紹介したい」と回答しました。日本では、犯罪被害者等への支援は「被害者本人とその家族」を対象としていますが、パートナーをはじめとする「身近な人が性被害を経験した人」も、孤立や孤独を感じており、サポートが必要であることがわかりました。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
			●	●	●	●		●	●	●	





NPO法人しあわせなみだ

パートナーが性被害を経験した男性向けチャットボット「Two Drops」事業実施体制

パートナーが性被害を経験した男性の疑問に、しあわせなみだが作成したデータをもとに GPTモデル（Azure OpenAI Service 提供）を利用して、チャットボット形式で回答します。やり取りを通じて、自分を振り返るヒントを提供します。



チャットボット
提供

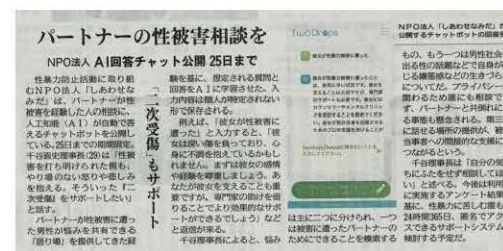
- ・企画
- ・チャットボットデータ作成
- ・広報

特定非営利活動法人
しあわせなみだ

監修
アドバイス



法政大学
岩田千亜紀さん



サービス提供



パートナーが
性被害を経験した男性

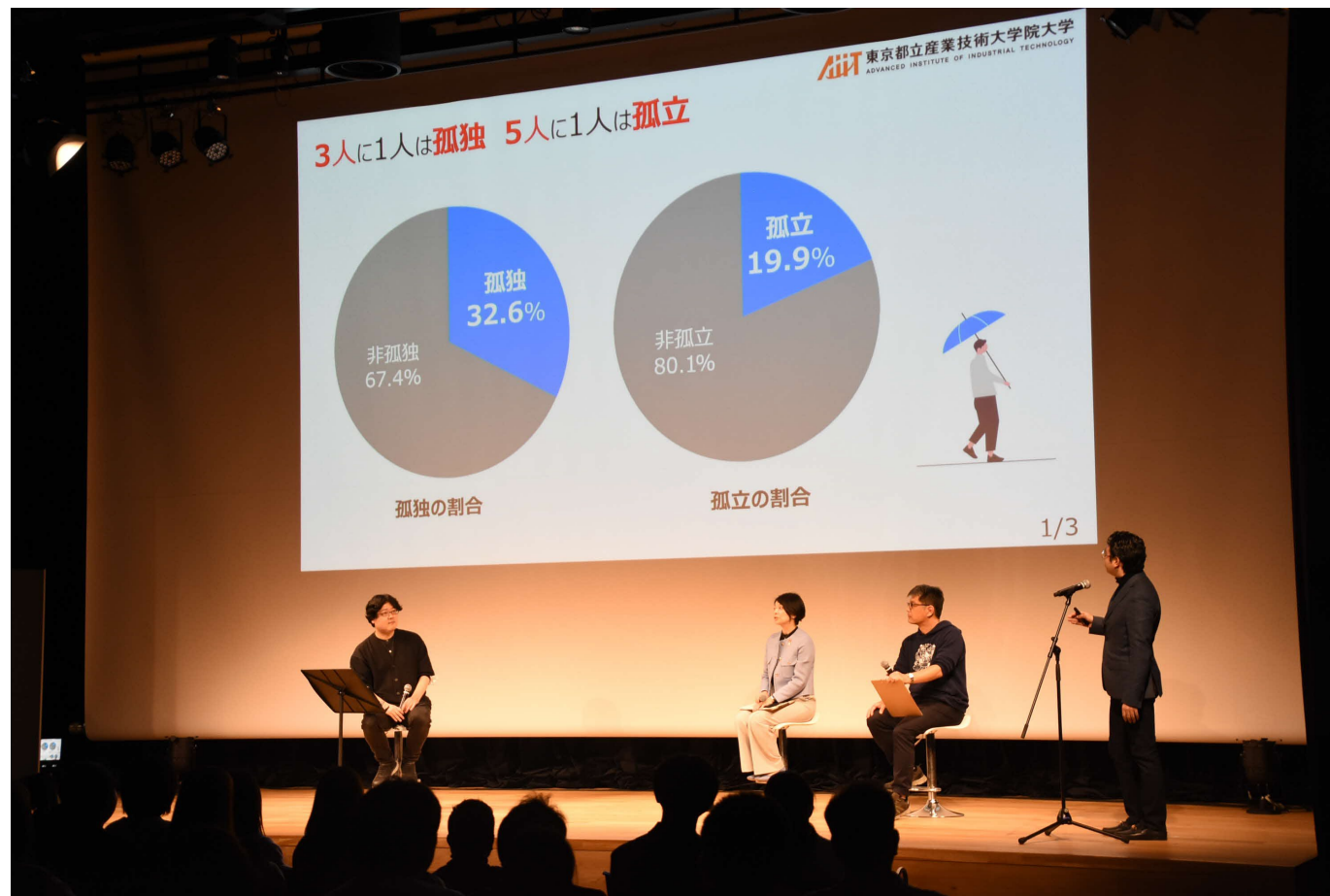
孤独・孤立対策普及啓発イベント「AWAKENING PORT～ちいさなぬくもり探してみませんか～」
【官民連携】

事業の実施機関	品川区
対象地域	品川区

連携先の実施機関
子ども若者応援フリースペース、一般社団法人モノづくりXプログラミング for Shinagawa、東京都立産業技術大学院大学、立正大学、一般財団法人大崎エリアマネジメント、株式会社スラップショット

取組の内容	
https://shinagawa-awakening-port.com	
取組の実施期間	イベント準備期間：令和6年8月6日～11月27日まで イベント当日：11月28日
取組の内容	孤独・孤立はだれにでも起こりうることであること、課題を抱えたとしても頼れる支援があることを周知することを目的としてイベントを実施いたします。内容は、内閣府孤独・孤立対策推進室大西参与による孤独・孤立対策の必要性についての講演や当事者団体を含めた関係者によるパネルディスカッション、声優による朗読劇を予定しております。より多くの方への周知のために会場とライブ配信のハイブリット型で実施します。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	今回、当事者を交えた実行委員会形式で実施しておりますが、当事者がイベントの内容によって傷ついたり、置いて行かれていると感じないように配慮した内容にすることと、多くの人に興味を持っていただくための内容のバランスに苦慮しております。
取組の効果	イベント内のアンケートにて効果検証していきます。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●



(イベント登壇の様子)



(イベント中の声優朗読劇)

こころの不調を抱えるゲイ・バイセクシャル男性のためのオンラインPGM：Brave Fighter【民民連携】

事業の実施機関	「勇者の部屋」
対象地域	全国

連携先の実施機関
「勇者の部屋」（事務局・運営本体）、株式会社TEIWA（告知・広告媒体）

取組の内容

<https://sites.google.com/view/brave-fighter>

取組の実施期間	2023年11月頃～未定
取組みの内容	昨今、こころの不調を抱える方の人口は増加しており、それはLGBTQ+でも同じ状況であると感じております。しかし、ご自身のセクシャリティがこころの不調と関連がある場合においても、主治医や心理カウンセラーなどにセクシャリティを開示できないまま治療・療養を続けておられる方も多くおられます。私自身がゲイであり精神障害者であるため同じ状況で困っておられる方が「セクシャリティ」と言う属性に気兼ねすることなく話せる場を「ピアグループミーティング」と言う形で行い、オンラインミーティングツールを使って全国からアクセスしていただいております。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	当初は告知をSNSのみに頼っていたため、なかなか認知されず参加者もまばらでした。しかし、協力機関である「株式会社TEIWA」が運営しているマッチングアプリにて無償で広告を掲載させていただくようになり、認知後も上がってまいりました。また、オンラインミーティングツールがご自身で扱えることが最低条件となるため、参加したいけど扱えず断念した、と言うお声も頂いております。現在の運営は「勇者の部屋」の代表者とボランティアスタッフである社会福祉士の2名体制であり、無報酬でおこなっていることもあり現状で限界であると感じています。
取組みの効果	PGM終了後、アンケートフォームを使用し参加者全員にアンケートを実施した結果（2024年1月～2025年1月）、有効回答数23でした。『1時間半という時間はいかがでしたか？』と言う問いには、1～5段階（1:短すぎる～5:長過ぎる）で中央値が3でありちょうど良い長さを感じておられるようでした。『今回の話題はご自身の生活やお仕事に良い影響を与えますか？』と言う問いには、1～5段階（1:あまり思わない～5:とても思う）で中央値が4であり満足度は非常に高いと捉えています。『プログラム全体を通しての印象はどうでしたか？』の問には5段階（1:とても悪かった～5:とても良かった）で中央値が5でありプログラム全体を通して満足度の高いものとなっております。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
						●	●	●	●		1

官学民医福連携で取り組む、つながり創出のための地域プラットフォーム「健高カフェ」

【官民連携】

事業の実施機関	国立大学法人福井大学
対象地域	福井県高浜町

連携先の実施機関
国立大学法人福井大学医学部地域プライマリアケア講座（共同事務局）、高浜町役場保健福祉課地域医療推進室（共同事務局）、たかはま地域医療サポーターの会（イベント協働）、JCHO若狭高浜病院（イベント協働）、高浜町社会福祉協議会（イベント協働）、特定非営利活動法人おひさま（イベント協働）、高浜町まちなか交流館（会場場所提供）

取組の内容	
http://kenko-machizukuri.net/kenkocafe/index.html	
取組の実施期間	2014年11月～
取組みの内容	けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ（健高カフェ）は、月1回街中にあるコミュニティスペースに自由に集まり、毎回テーマ（参加者提案）を設けて話を聞いたり話をしたりする中で、参加者が気付き、出会い、協働するきっかけを提供する、地域プラットフォームの取り組みです。地域主体に地域課題を解決していくことや、つながりのチカラ（ソーシャルキャピタル）を醸成すること、楽しく取り組んで関心のない人も巻き込むことを重視しています。思いのある住民（団体）、行政職、健康感系専門職等が、お茶とお菓子を楽しみながら、楽しく前向きにおしゃべりしています。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	真面目で堅苦しい会合になってしまうと参加のハードルが上がってしまうため、何気ないおしゃべりや話しやすい環境調整（古民家を改装したコミュニティスペース、お茶やお茶菓子の準備など）に心掛けました。ただし、単におしゃべりして話を発散させて終了してしまうと取り組みにつなげにくいいため、話を収束させるために意見の抜き出し及びその意見の関係者（イベント協働者）への情報提供を実施しました。
取組みの効果	健高カフェで話し合われた意見から、町民体操プロジェクトや子ども食堂など、これまでに20以上の施策が実現しています。孤独・孤立対策としては、自宅でもできるオンライン町民体操会、独居者向けのワンコインランチ会などが実装されています。健高カフェ由来の各種活動に関わった町民は、関わっていない町民よりも、ソーシャルキャピタルの指標が1.4～2.3倍優れていることがわかっています。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
		●	●					●	●	●	1



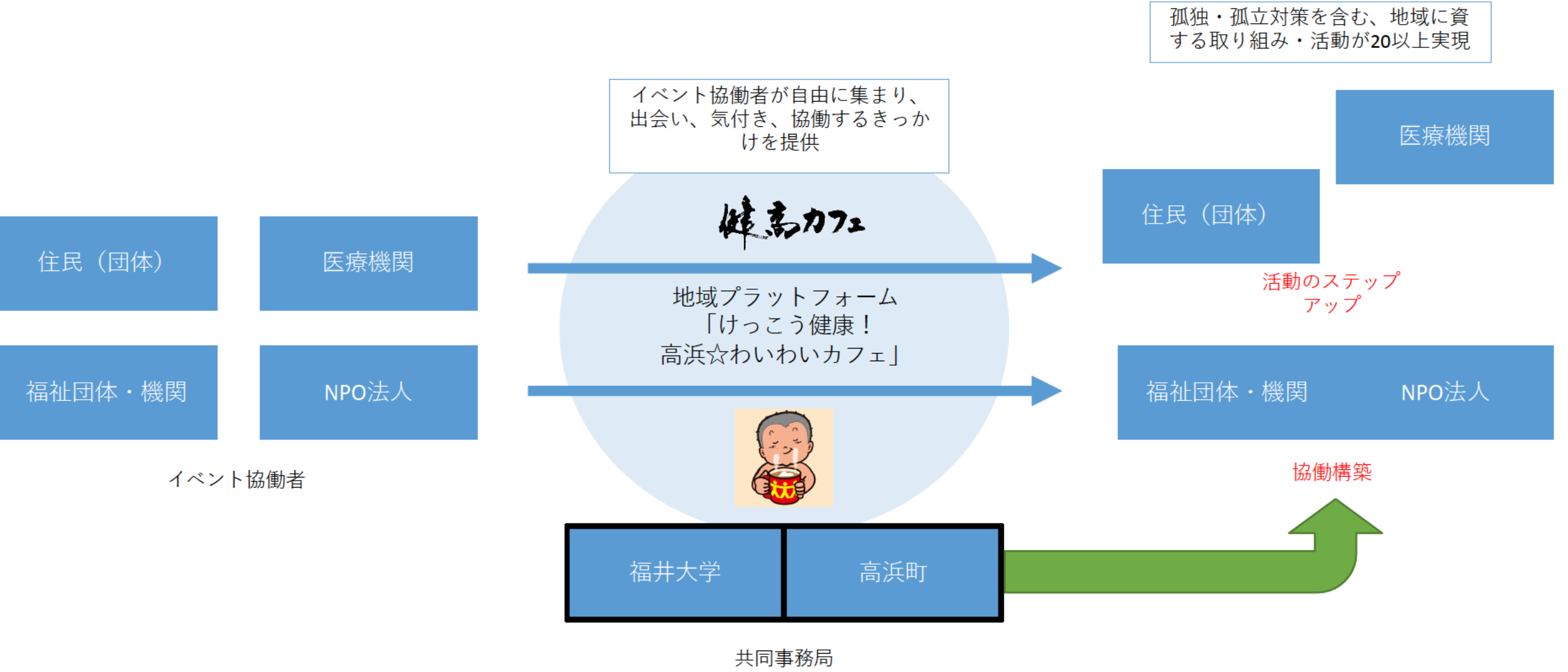
けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ（健高カフェ）の様子



町民体操プロジェクトの様子

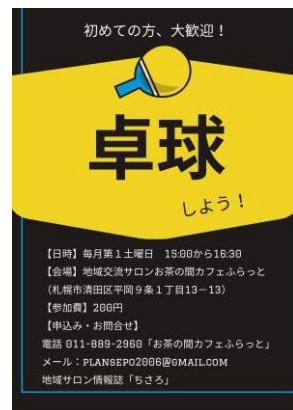
けっこう健康！高浜☆わいわいカフェ（健高カフェ）事業 実施体制

月1回コミュニティスペースに自由に集まり、毎回テーマを設けて話を聞いたり話をしたりする中で、参加者が気付き、出会い、協働するきっかけを提供する、地域プラットフォームの取り組み



地域サロン情報誌「ちさろ」発行 および卓球サロン運営【民民連携】

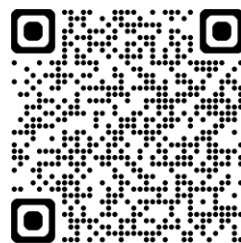
[illegible]



地域サロン情報誌「ちさろ」 創刊号の表紙。12ページ仕立。年2回、各4000部を市民に無料配布中。



地域サロン情報誌「ちさろ」オンラインで読めるサイト



毎月第一土曜日開催
「温泉ピンポンカフェ」
NPO法人ふくろう清田と共催で24年8月より実施中。QRは、サロンの様子のYouTubeチャンネル

内閣府プラットフォームの孤独・孤立対策強化月間の取組み：チカホでスマホ相談会（24年5月27日）

第二期・食で結ぶ「孤独・孤立対策プラットフォーム」の構築【官民連携】

事業の実施機関	一般社団法人フードバンク八王子	対象地域	八王子市
---------	-----------------	------	------

連携先の実施機関		
【民間団体】	・パントリー：はちせいパントリー、まほうのほうき ・NPO法人里親ほいっふ ・社会福祉法人武蔵野会 ・八王子市社会福祉協議会	・子ども食堂：カフェ北野、たてキッチンさくら ・八王子市若者サポートステーション ・島田療育センターはちおうじ ・駒木野病院 ・八王子市仏教会
【八王子市】	・福祉政策課 ・生活自立支援課 ・障害者福祉課	・男女共同参画課 ・八王子保健所 ・子ども家庭支援センター
【学校】	・東京都立大学 ・八王子拓真高校	
【法務省】	・多摩少年院	

取組の内容	
https://bit.ly/3z1kenC	
取組の実施期間	2023年7月～2024年2月
取組の内容	昨年度と同様に、八王子独自の孤独・孤立対策プラットフォームとして孤立者を支援するための官民連携した会議体を構成し、孤立者と繋がり続ける受け皿（入口）として毎週「フード・カフェ」を開催しています。なお今年度は昨年度の実績の上に、（１）参加団体を拡大し、（２）都立大学と連携した学生支援、（３）個別具体的な事例研究を組み込み、（４）官民学の有識者との議論を通じて問題理解と相互連携を深化させることが目標です。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	大前提として、会議体が官民連携した大所帯でもあることから日程など様々な調整事項には苦労しています。しかし、本プロジェクトの最大の課題でもある「孤独・孤立対策のために、どのように意識を共有し、どのように具体的なアクションへと繋げてゆくのか？」という点に関しては、どうしても凸凹があり、この解消とレベルアップが今年度の最重要な課題でもあると認識しています。
取組の効果	上記のような課題があるにもかかわらず、徐々に効果は生まれてきています。それは毎月の月例会の盛り上がりや、個々のケースの相談と情報共有、解決のための連携、更には参加団体同士での訪問や講義など、全体としての連携の密度は確実に高まってきています。

[illegible]



上記は毎月の定例会での風景。この時には、東京都立八王子 拓真高校の林校長にプロジェクトメンバーとしてご講演頂いた。この高校は三部制であり、特有の困難な課題と向き合っていることがよく理解できた。



上記は活動の集大成として2月に開催した「つながりをつくるシンポジウム」の風景。筑波大学の船越先生が大学生の多様化と大学の変貌をテーマに講演している。会場が満員となり、アンケートの回収率も高かった。



左記は孤独・孤立対策特命委員会の委員長・小倉衆議院議員（自民党副幹事長）を迎えての意見交換会。予定時間をはるかに超過するほどの活発な意見交換となった。

「第二期・食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォーム」の構築事業 実施体制

昨年度と同様に、八王子独自の孤独・孤立対策プラットフォームとして孤立者を支援するための官民連携した会議体を構成し、孤立者と繋がり続ける受け皿（入口）として毎週「フード・カフェ」を開催する。なお今年度は昨年度の実績の上に、（１）参加団体を拡大し、（２）都立大学と連携した学生支援、（３）個別具体的な事例研究を組み込み、（４）官民学の有識者との議論を通じて問題理解と相互連携を深化させることを目標とする。

【窓口以前（市民活動）】

当事者＝孤立者から見たフロントエンド領域

- ① 一言で言えば「多様な居場所」。例えば、子ども食堂、パントリー、フードカフェ、親子の居場所、高齢者カフェなど気軽に立ち寄れる地域の居場所。
- ② 従って、主に民間のボランティア活動が中心。



【中間支援組織】

両者をブリッジする機能を果たす
フードバンク八王子



【窓口（機関）】

当事者＝孤立者を支援するバックエンド領域

- ① 行政機関、医療機関、福祉施設など、利用者がやって来るのを待ち「窓口」で受け付ける機関。
- ② 従って、民間・行政による専門機関が中心。



北区繋がり広がるプロジェクト【官民連携】

事業の実施機関	一般社団法人SHOIN
対象地域	東京都北区

連携先の実施機関
北区子ども未来部子ども未来課、一般社団法人COCOROごはん、特定非営利活動法人子育てママ応援塾ほっこり〜の、フィレールラビッツ浮間、みんなのタはん処きりのはな、東京商工会議所北支部

取組の内容	
https://tsunagaru-kita.net/	
取組の実施期間	2021年7月～（官民連携は2024年4月～3年程度）
取組の内容	本事業はアウトリーチ支援です。支援が必要であるにも関わらず、支援の届いていない方々に、訪問員が月1回プレゼントをお持ちし、子ども達やそのご家族と継続的に繋がり続けます。現在は子ども食堂など拠点型支援を継続している方に訪問員になっていただいています。子ども達やそのご家族と確かな繋がりをつくっていき、その中で子どもや家庭に潜在する課題を発見し、必要性があれば支援に繋ぐ包括的な支援です。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	本プロジェクトは区内の民間団体同士の連携で2021年からスタートさせ、2024年4月からは北区政策提案協働事業として公民連携の形で実施することとなりました。現在は子ども食堂運営者に訪問員となってもらっていますが、一般ボランティアの方も募り、訪問員を増やしていく必要があります。また外部団体や北区子ども家庭支援センターとの連携でアウトリーチに対しての研修の機会を構築することも必要で現在進めています。
取組の効果	徐々に本プロジェクトを実施する運営団体と、北区子ども家庭支援センターとの連携も取れてきています。今後は互いに情報交換ができる様な機会を定期的に設けていきます。また訪問する際に持っていくプレゼントも、地域企業からの寄付によってまかなっていく形を目指していますが、協力企業も現れてきました。本プロジェクトHPの運営費も東京商工会議所北支部から寄付をいただくなど、地域課題解決に向けた水平連携が出てきています。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
	●	●	●	●	●	●		●	●		1

北区繋がり広がるプロジェクト

[リーフレット]

支援の在り方

「他人事」に感じていたことが、
徐々に「自分事」に変わり、
徐々に「自分事の範囲」を拡げていく

区民としてできること
できる範囲で困っている人をサポートする

訪問員としてできること
アウトリーチャー(訪問員)として、継続的に支援対象者と繋がり続ける

支援者としてできること
寄付という形で本プロジェクトを定期的に支援する

ABOUT

本プロジェクトについて

子どもや子育て家庭との顔の見える繋がりがつくり、行政だけでは目の届かない子育て家庭の状況把握をすると共に、関係機関・団体と連携して必要かつ適切な支援につなぐ仕組みづくりを目的としています。また孤独・孤立や貧困の問題をその家庭の問題ではなく、地域の社会課題として、子ども食堂等の子育て支援団体、企業・経済団体などが一緒になって取り組むプロジェクトを目指します。

内容

本事業はアウトリーチ(訪問)支援です。支援が必要であるにも関わらず、支援が届いていない方々に、訪問員が月1回プレゼントをお持ちし、子ども達やその家族と継続的に繋がります。

運営団体

一般社団法人 **SHOIN**

〒115-0043 東京都北区神谷2-6-3
☎ 080-9269-5525
✉ shoin.shoin.2020@gmail.com
<https://shoin-tokyo.com/>

北区繋がり広がるプロジェクト

KITAKU TSUNAGARI-HIROGARU PROJECT

一人ひとりが、
区民として
できること

できる範囲で困っている人をサポートする

日常のつながりが、周囲の人の孤独感・孤立感を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのを防ぐことにつながるかもしれません。

人々の約4~5割の人が
孤独を感じている

例えば、こんなことから始めませんか？
“身の回りの方に關心を持つ”
“相手のことを少し気にかける”
“親身になって話を聞く”
“本プロジェクトを紹介する”
“子ども食堂や行政支援を紹介する”

まずはできることから、
本プロジェクトに参加ください。

困っている方と繋がる方が、
訪問員として
できること

アウトリーチャー(訪問員)として、継続的に支援対象者と繋がり続ける

支援対象者(子ども達)に月に一度、プレゼントを持って、ご自宅に訪問するアウトリーチ支援を行っていきます。

アウトリーチ支援の
具体的な取り組み

①訪問員になっていただく
訪問員のご寄付はこちらから→

・子ども食堂など拠点型支援に携わる方
・学校や町会などで困っている方とお知り合いの方
・不登校のお子様とこれまでお付き合いしてきた方
etc

②お困りの方に利用登録してもらう
③訪問員の皆様にプレゼントをお届け
・プレゼントを直接子ども達に渡すため、訪問する日時を、利用日時と調整してください。

④いざ訪問
たくさんの方の会話ができれば関係をつくり、相談事を聞くことによって、様々な繋がりがつくっていきます。

子どもを取り巻く家庭環境を含む包括的支援です。

個人や企業が寄付を通じて、
支援者として
できること

寄付という形で本プロジェクトを定期的に支援する

地域の社会課題として捉えていただける個人・企業が贈ることで、より多くのご家庭に支援を届けることができます。

個人のご寄付はこちら

子どもたちへ手渡しする
プレゼント購入費のご支援をお願いします。
ご寄付のご連絡はこちらから→

企業・団体のご寄付はこちら

プレゼント購入費または
商品・製品などでの
ご支援をお願いします。
ご寄付のご連絡はこちらから→

企業の事業活動を通じて、本プロジェクトに参加いただき、企業のCSRとして一緒に活動ください。

年に一回の寄付という形で
プロジェクトに参加ください。

[ホームページ]

「他人事」と感じていたことが、
徐々に「自分事」に変わり、
徐々に「自分事の範囲」を拡げていく。

<https://tsunagaru-kita.net/>





北区繋がり広がるプロジェクト の取り組み

一般社団法人

SHOIN

×

北区子ども未来課

北区政策提案協働事業

- ①地域の方に、訪問員(アウトリーチャー)になっていただく
子ども食堂運営者、子育て支援団体、地域のキーパーソンなど、
支援が必要である方と繋がっている方に、本プロジェクトに
訪問員になっていただいています。



- ②アウトリーチ支援が必要な世帯に利用登録してもらう。

子ども食堂やフードパントリー運営者であれば、その拠点型の活動
の場で。町会に携わる方であれば、地域行事や集まりの場で。



- ③プレゼントを訪問員の皆様にお届けする。

「プレゼントを手段として、ご自宅に訪問する」手法をとっています。
プレゼントを準備して、我々SHOINから訪問員の方々にお届けし、
訪問員の皆さんは、このプレゼントを直接子ども達に渡すため、
訪問する日時を利用世帯と調整して決定していきます。



- ④いざ訪問！

訪問員が月1回プレゼントをお持ちし、子ども達やそのご家族と顔を合わせます。
そしてたくさんの会話ができる関係をつくり、相談事を聞くことによって、
確かな繋がりをつくっていきます。
その中で、子どもや家庭に潜在する課題を発見し、必要性があれば支援に繋げることが
できます。子どもを取り巻く家庭環境を含む包括的な支援となります。



ふまねっと運動を利用した健康づくり仲間づくり【官民連携】

事業の実施機関	認定特定非営利活動法人ふまねっと
対象地域	札幌市、北広島市、北見市、帯広市、稚内市、利尻町他

連携先の実施機関
特定非営利活動法人ゆとりの（健康づくりの連携団体）、池田町社会福祉協議会、北広島市にし高齢者支援センター（ネットワーク）、稚内市（事業委託元）、利尻町（事業委託元）、北見市（事業委託元）、帯広市（事業委託元）、イオン北海道株式会社（連携団体）

取組の内容	
https://www.1to3.jp/	
取組の実施期間	地域住民がふまねっと運動を利用して健康教室に取り組んでいます。2004年に釧路市から始まり、今では北海道の80%以上の市町村で3,000人以上のボランティアが活動しています。今年で20周年を迎えますが、今後も住民活動として継続していく予定です。
取組の内容	高齢者や地域住民が指導者となって取り組むことができる楽しい運動プログラム「ふまねっと運動」を行って、町内会、老人クラブ、サロン、大型商業施設で定期的に健康教室を実施しています。特定非営利活動法人ふまねっとという団体で、ふまねっと運動の指導者養成を行っています。ふまねっと運動の指導者は、「ふまねっとサポーター」という資格を取得します。現在ふまねっとサポーターは、全国の都道府県で6,000人が活動しています。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	公的な機関の理解や支援が得られないことです。高齢者や障がい者には役割を提供し、活躍する場所や機会を拡大することで、健康を維持し、仲間を増やし、孤立を防ぐことにつながります。私達の活動をサポートする制度がないことです。
取組の効果	地域で健康教室の指導に取り組む高齢者を過去20年間で延べ19,000人養成しました。 2004年に釧路市ではじまった住民主体のふまねっと教室は、20年以上経過した現在でも継続しています。100%自主的なボランティア活動です。 北海道池田町では、高齢者ボランティアが社会福祉協議会と連携して健康教室に取り組んだ結果、2012年の介護費23,627,000円が2018年には9,190,000円へと61%削減されました（北海道国民健康保険団体連合会、『北海道の国保』No. 753, p6-9. 2022年8月号）。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
					●	●		●	●	●	● 1

2024年に利尻町で行われたふまねっと教室。

高齢者が指導者となって地域住民を対象に健康づくり、仲間づくり、まちづくりボランティアを行います。



ふまねっと運動では、ハイタッチをして
お互いの挑戦をほめたり、励ましたりします。

90歳を超えた参加者が挑戦しています。
指導するのは78歳と76歳のふまねっとサポーター。

イオン北海道株式会社と連携して行われている
イオンふまねっと教室は毎週水曜日に開催。



参加者は、毎回異なる。誰でも参加歓迎。
NPO法人ふまねっとの自主事業として開催している。

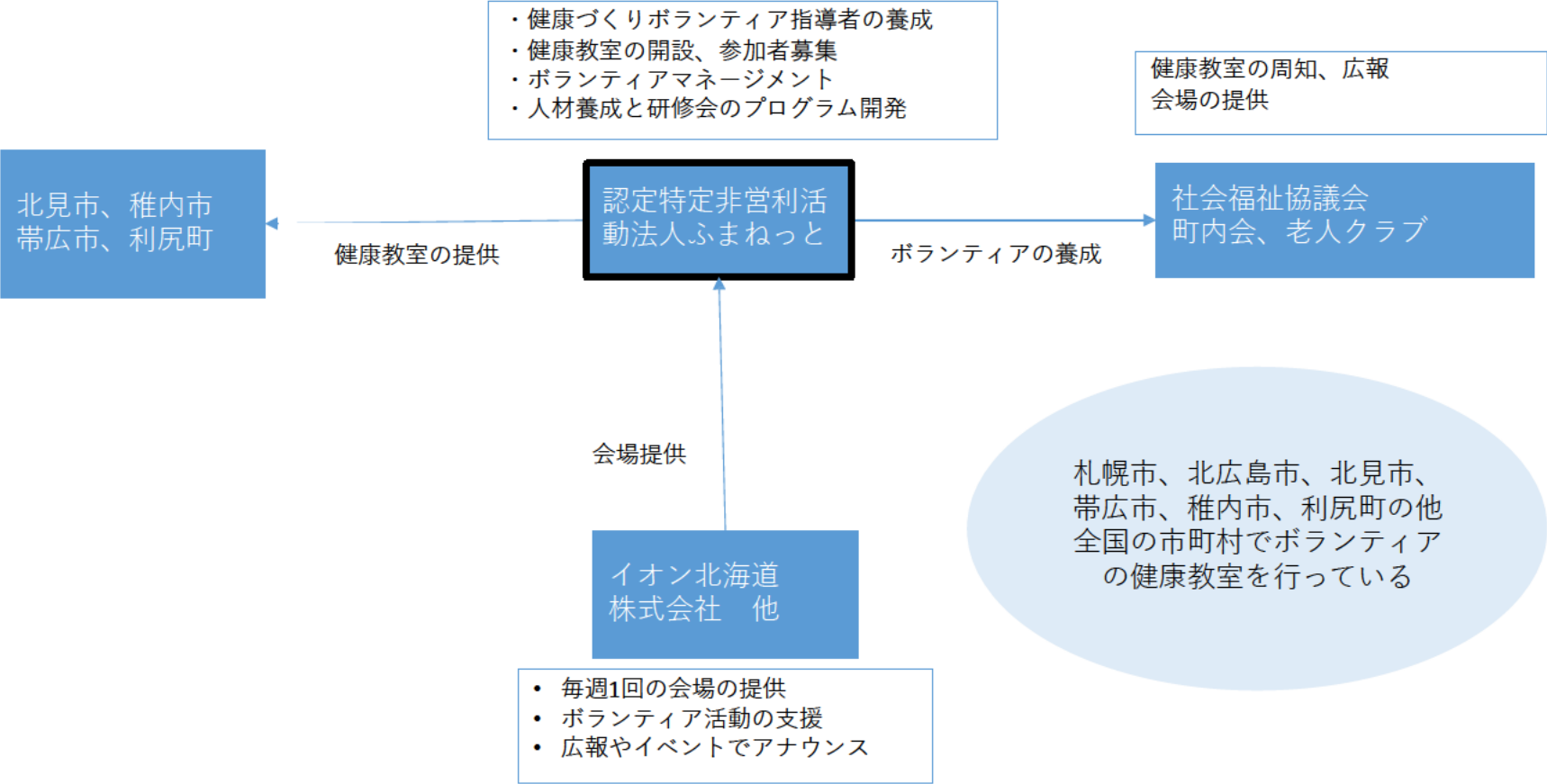
稚内市が令和6年度介護予防事業として
認定NPO法人ふまねっとに委託した教室



稚内市保健福祉センターで市民が指導者になって
ふまねっと教室が行われている。

ふまねっと運動を利用した健康づくり仲間づくり事業 実施体制

高齢者や一般の地域住民が指導者となって取り組むことができる楽しい運動プログラム「ふまねっと運動」を行って、町内会、老人クラブ、サロン、大型商業施設で定期的に健康教室を実施しています。特定非営利活動法人ふまねっとという団体で、高齢者を対象にふまねっと運動の指導者養成を行っています。ふまねっと運動の指導者は、「ふまねっとサポーター」という資格を取得します。現在、ふまねっとサポーターは、全国の都道府県で6,000人が活躍しています。北海道では3,000人が活躍しています。



病気療養中に孤立・孤独に陥っている人が社会復帰できるよう支援する【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人あしたばの会	対象地域	調布市を中心に日本全国
---------	-----------------	------	-------------

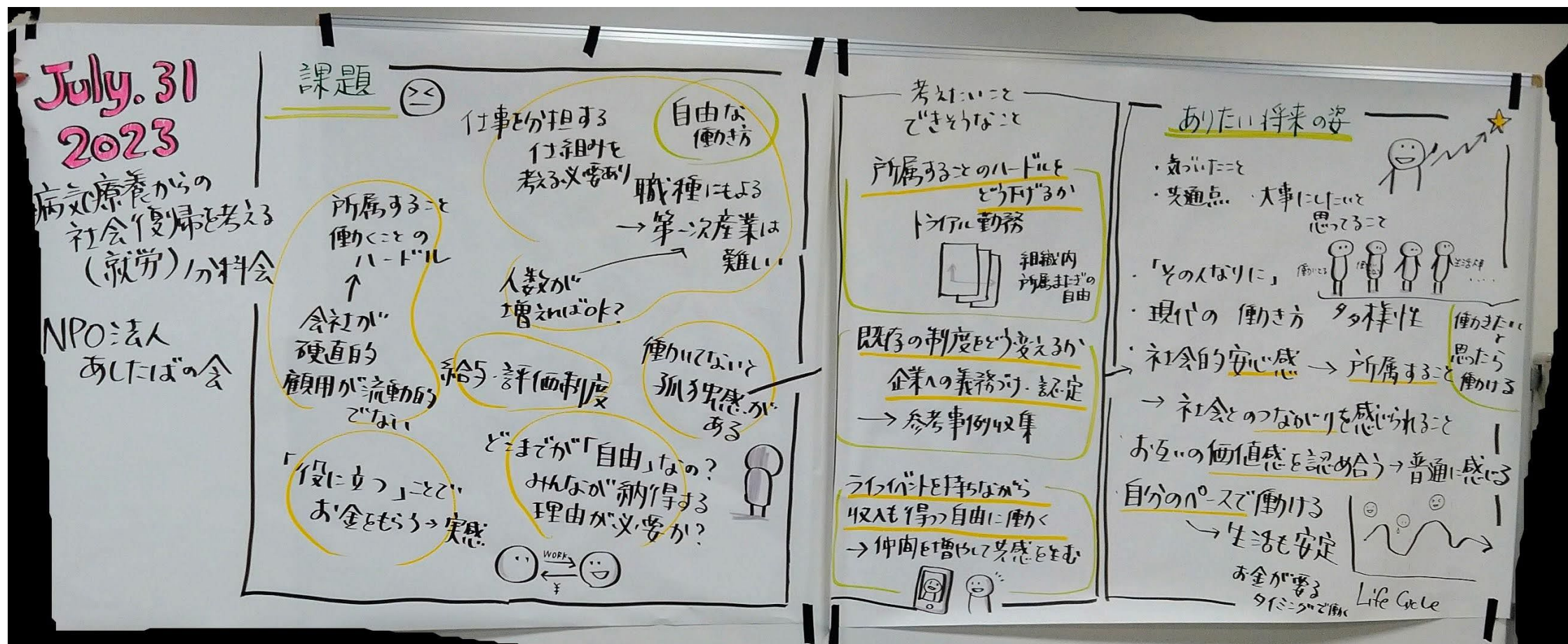
連携先の実施機関
社会福祉法人調布市社会福祉協議会（相談窓口の連携）、東京都多摩難病相談・支援室（相談窓口の連携）、特定非営利活動法人高次脳機能障がい者活動センター 調布ドリーム（就労継続支援B型事業所として連携）（その他の連携先） 各市町村の社会福祉法人社会福祉協議会（相談窓口の連携）、都道府県社会福祉関係支援組織、各地のハローワーク（人材紹介・就職支援の連携）、人材紹介会社（人材紹介・就職支援の連携）、IT関連企業（仕事の提供支援）、大学大学院研究室（社会課題の解決について研究）

取組の内容	
https://www.npo-ashitaba.or.jp/	
取組の実施期間	2021年1月頃開始、長期継続予定
取組の内容	病気のために長期療養を経験すると、寛解しても体力回復だけでも想像以上の時間と努力を要し、再就職・定着していくのは容易ではありません。 あしたばの会の取組 ・病気療養中の相談（将来への不安、公的制度の利用など） ・体調・事情にあわせた就職活動支援 ・自宅でできる仕事の提供や資格取得支援 ・社会全体で復帰を後押しする仕組みづくり 孤独・孤立の人の約30%は病気が起因で、相談者には病気のため社会に出られず周りに相談相手がない方や引きこもりの方も多く、該当者を見つけ出す役割も果たしています。社会福祉協議会や都道府県の支援組織、ハローワークなどと連携し、一般企業の協力も得て社会復帰を支援しています。 地方創生SDGs官民連携プラットフォームの「病気療養からの就労(社会復帰)を考える」分科会で提言書「病気療養からの就労(社会復帰)を支援する」を作成し公表しました。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	病前の体調には戻れず、障害者認定も得られない人は各種支援制度の対象ではないため十分な支援を受けられず、就労～社会復帰が困難になっています。このような状況は病気になった自分の自己責任と考えがちで、公的機関をはじめとした支援を求めようとしないことが多く、こうした人が悩んだ際に相談先として頼れるようなホームページにしています。 社会復帰の第一歩となる自宅で短時間働けるような仕事の確保が難しい状況です。
取組の効果	2023年度は17,939ユーザーがホームページに訪問いただき、387件の相談・問合せに繋がっています。 うち50名に次の継続的支援を実施しました。多くの方は孤独・孤立、引きこもりに陥っています。 公的制度や経済的問題に関する支援 19人、療養中の不安や将来の就労支援 18人、就職活動の支援13人、自宅でできる軽作業（報酬あり）を提供 52件の作業、一般企業や福祉施設へ就職等ができた人 11人

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
											● 1

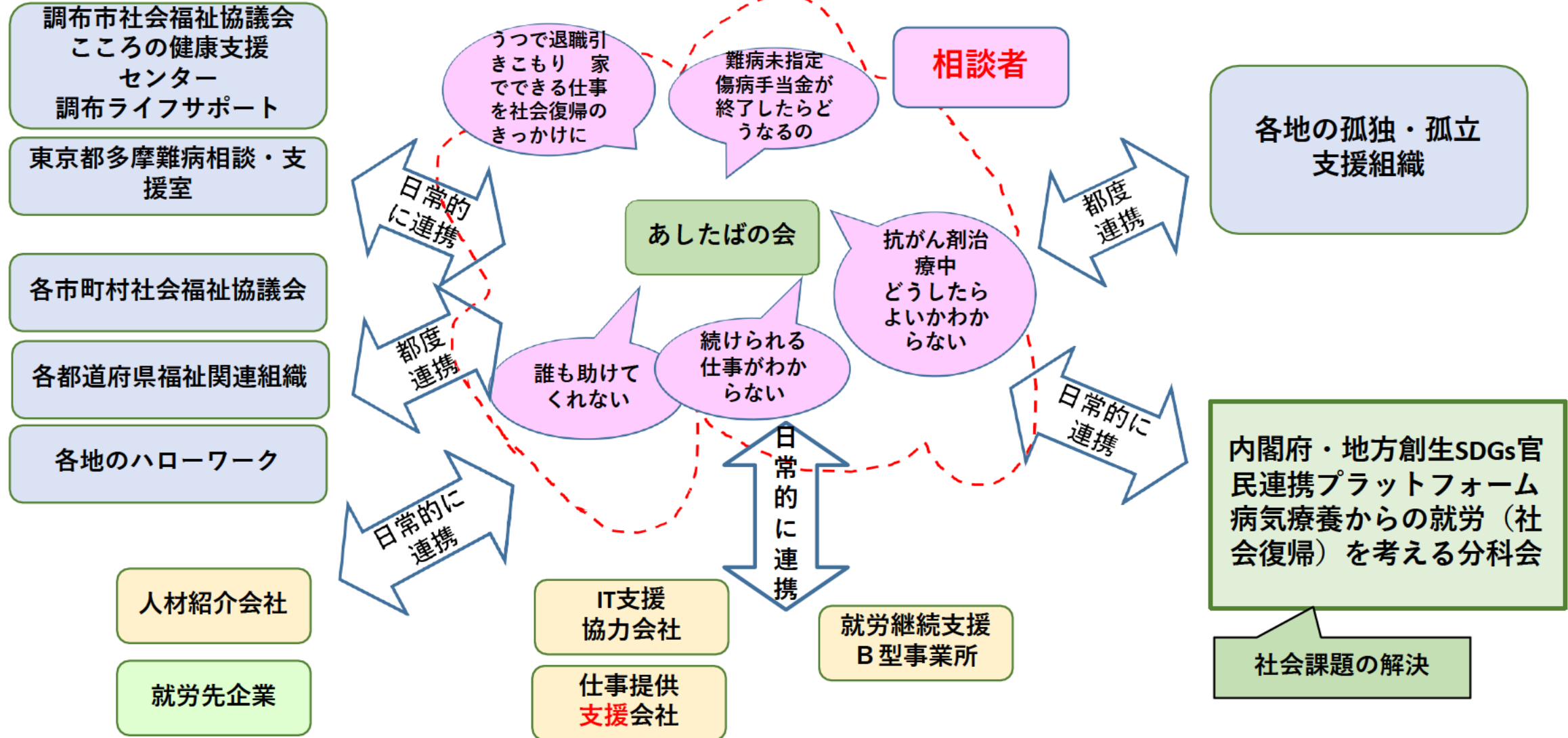
内閣府 地方創生SDGs官民連携プラットフォームの「病気療養からの就労(社会復帰)を考える」分科会
2023年7月に開催した第一回分科会で抽出した「課題」と描いた「ありたい将来の姿」

分科会参加者：病気療養からの就労を目指す療養者とその家族、企業の人事担当者、支援する社会福祉協議会などの公的機関、社会問題解決の大学院研究者、職場での経験から問題意識を持つ方、あしたばの会



病気療養からの就
労（社会復帰）と
孤独・孤立対策
実施体制

病気のために長期療養を経験した人が再就職・定着していくのは容易ではなく、社会福祉協議会や都道府県の支援組織、ハローワークなどと連携し、一般企業の協力も得て社会復帰を支援しています。
孤独・孤立の人の約30%は病気が起因で、相談者には病気のため社会に出られず周りに相談相手がない方や引きこもりの方も多く、該当者を見つけ出す役割も果たしています。



静岡方式による伴走型就労支援～市民ボランティアのネットワークによる就労支援～ 【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人青少年就労支援ネットワーク 静岡
対象地域	静岡県全域

連携先の実施機関
特定非営利活動法人青少年就労支援ネットワーク静岡（就労支援）、静岡地域若者サポートステーション、富士市若者相談窓口等（受託事業相談窓口）、静岡県社会福祉協議会（困窮者自立支援・学習支援等連携）、町社協（困窮者自立支援・学習支援等連携）、県及び各市町（受託元）、企業（就労先・職場見学・体験先）、ボランティア団体等（余暇活動・ボランティア受け入れ）、県立高等学校/通信制高校等（進学・転学相談、校内カフェ）、大学生（就労支援セミナー運営）、社会福祉法人（就労先・職場見学・体験先、学習支援の会場）、居住支援法人（アパート住まいの提供）、フードバンク団体（食べ物の提供）他

取組の内容	
https://www.sssns.org/shizuokahoushiki/	
取組の実施期間	2002年頃から
取組の内容	静岡県内の働きたくても働けない人々を「静岡方式」の市民ネットワークによる伴走支援で応援しています。年2回開催する若者就労支援セミナーでは、参加者・学生・サポーター（無償の市民ボランティア）が合宿をし、参加者の興味関心や好きなことなどを中心に職場見学や就労体験をします。支援の場は地域にあり、サポーターの強みやコネクションを活かし就労支援を半年間行い、相互扶助の地域づくりを目指して活動しています。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	就労支援セミナーは集合セミナーと個別支援がセットですが、当初は別々だったため、個別支援を望まない方が多くいました。そこで、個別支援の導入として集合セミナーを行うことで、なんとかできそうと思うところから職場見学や就労体験など就労支援を6ヶ月間行います。就職がゴールで6ヶ月で終了ではないため、県内各地域でフォローアップミーティングを行い、サポーターとつながり続けられるようにしています。
取組の効果	以前は就労支援の参加者だった若者が、働き始めると、今度はサポーター側として参加者の伴走支援をしていくことは珍しくありません。自分を伴走したサポーターの困りごとを応援する側になることもしばしばあります。地域の困りごとを繋いでごちゃ混ぜになりながら余暇を楽しんだり、誰かの応援をすることもあります。当初は若者の応援だけでしたが、活動年数を重ね就労支援を真ん中に、赤ちゃんからお年寄りまで応援合っています。

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
											●



令和7年1月 受付スタート!!

若者の明日を 応援する、 就労支援セミナー

対人能力と働くための自信を高める!!

累計実施回数
43回
H16~

累計参加者数
800人以上

日程
計4回
令和7年
3月

定員
先着
20人

参加者
募集中

申込みフォーム

対象 概ね40歳未満で現在就職しておらず、
全てのプログラムに参加できる静岡県内の方

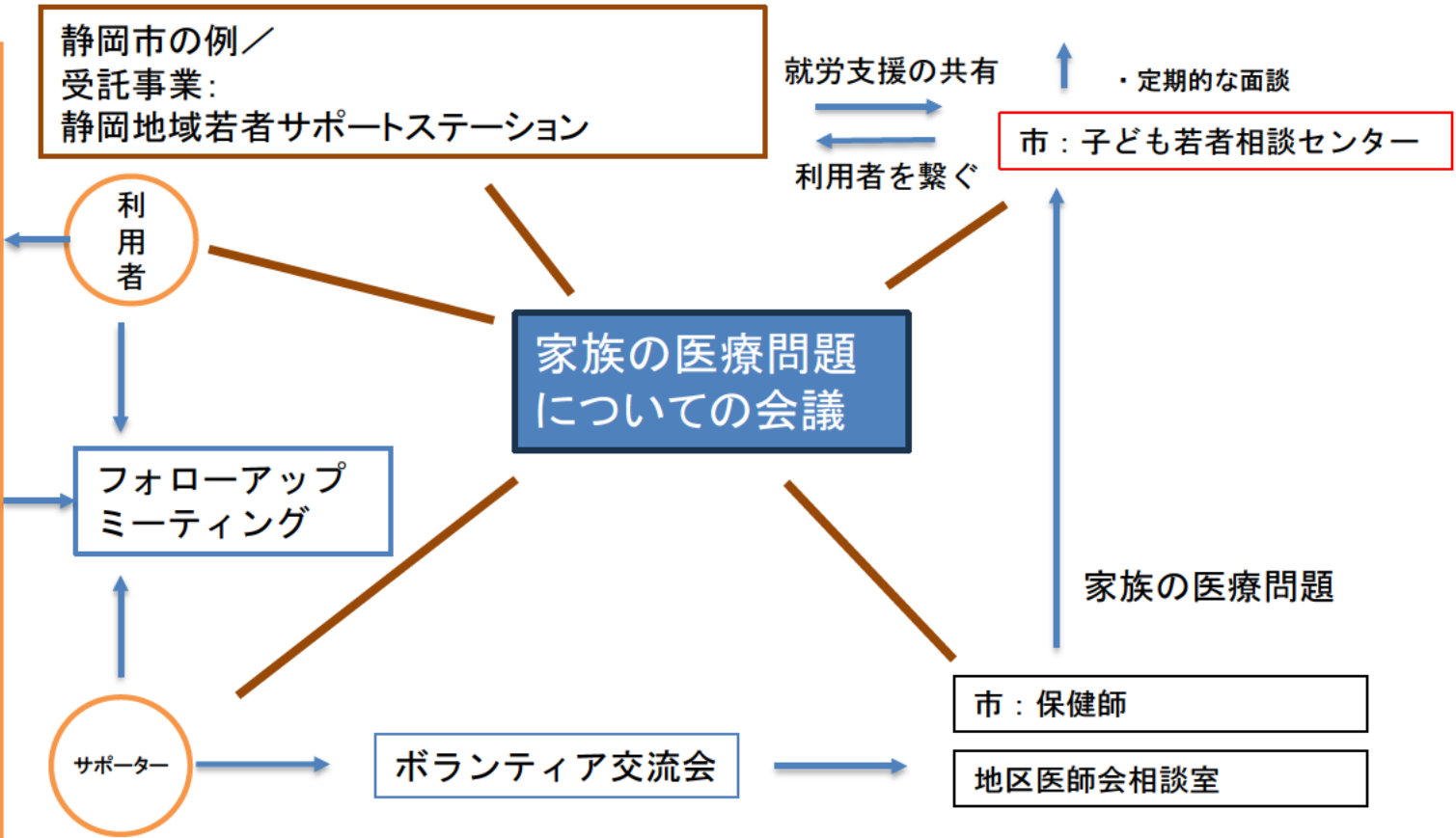
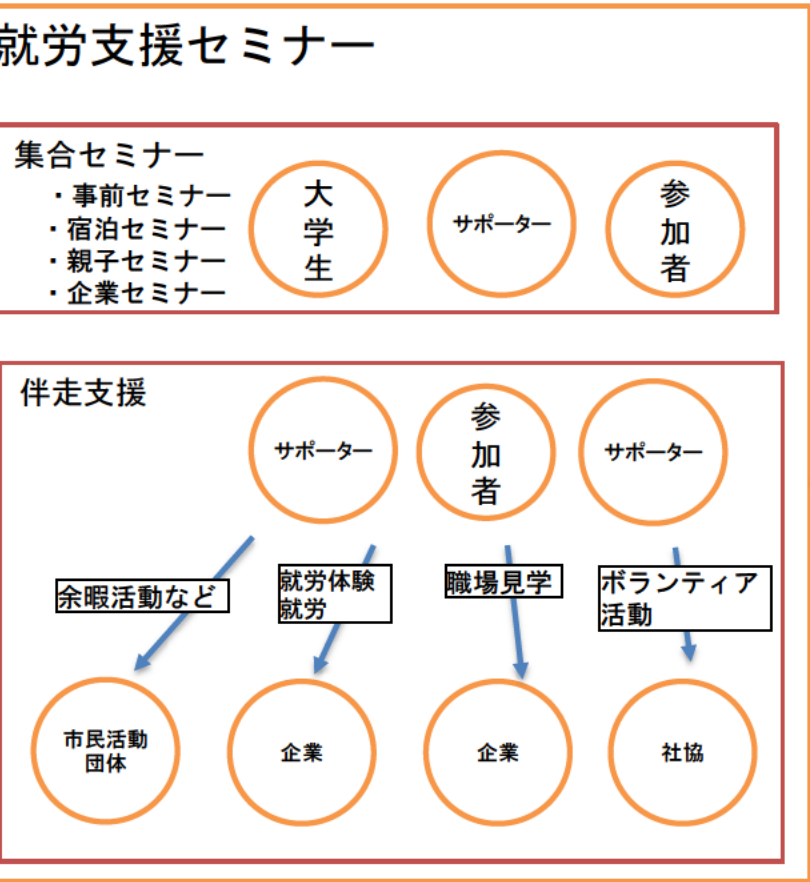
「人と接するのがちょっと苦手な仕事をするのが不安。」



青少年就労支援ネットワーク静岡

事例：静岡市内の生活困窮世帯の若者の就労支援の事例

市こども若者相談センターより繋がった生活困窮世帯の若者が就労支援セミナーに参加し、サポーターによる伴走支援を行なった。家族が医療につながっておらず働けない状況を、サポーターがボランティア交流会で相談し、市の保健師、地区医師会の相談室につながった。そこで、子ども若者センターで、若者の定期的な面談、家族が医療につながるように多機関連携して受診し、就労ができた。



- 市民活動団体
- 企業
- 社福法人
- 社協
- フードバンク団体
- 居住支援法人

当事者・家族・専門職がネットワークを組んだ孤独・孤立対策（社会的支援）の実践【官民連携】

事業の実施機関	NP0法人 全国言友会連絡協議会（社会的支援推進委員会）	対象地域	全国
連携先の実施機関			
・全国の吃音当事者の自助グループ45団体【北海道・東北ブロック4団体、関東ブロック7団体、中部ブロック12団体、関西ブロック8団体、中四国ブロック7団体、九州・沖縄ブロック7団体】（プロジェクトへの参画と支援の全国展開への協力） ・NPO法人「吃音とともに就労を支援する会」ドーモわーく【名古屋市,全言連加盟団体】（就労支援部会での連携） ・きつおん親子カフェ【2022年度シチズンオブザイヤー受賞団体】（市民啓発部会、就労支援部会、中高生支援部会での連携） ・吃音医師の会、吃音のある看護師交流会（プロジェクトへの参画、専門的見地からの助言） ・他の音声言語障害当事者会と連携（吃音啓発、吃音以外にも、場面緘黙、発声障害、失語症、咽頭全摘出後の当事者との連携）			
取組の内容			
https://www.zengenren.org/ https://chukosei-tsudoi.my.canva.site/			
取組の実施期間	令和4年7月頃～現在まで ・令和4年7月準備会議発足、令和4年9月～令和5年8月（初年度、全体に協議、部会の設置、部会毎の協議） ・令和5年9月～令和6年8月（2年目、部会毎の協議による多様なツールの開発）		
取組の内容	全国言友会連絡協議会（以下：全言連）は、全国45団体ある吃音（きつおん）のある人のセルフヘルプグループ「言友会」（げんゆうかい）を緩やかに束ねる連絡組織で、「吃音があっても豊かに生きる」ことを目指す活動を行っています。吃音は、100人に1人に見られるにも関わらず、スムーズに話せないことによる困難を独りで抱えこみ、苦悩の中で日々を送っている人は少なくありません。特に、ことばの教室による支援が無くなる中学・高校生の孤立、面接や電話等の困難による「就職」の問題に加え、一般的に「吃音」について正しく知る人が少ないことによる問題が、吃音のある人の孤独・孤立に繋がっていると感じてきました。そこで全言連が中心となり、吃音当事者だけでなく、家族や専門家と共に「社会的支援推進委員会」を立ち上げました。吃音のある当事者の孤独・孤立状態の解消に向けて、4つの課題をテーマに掲げ、啓発ツールの制作及びモデルエリアへの配布、モデル的な居場所の創出等に取り組んでいます。		
取組にあたって苦労、苦慮した内容	吃音の課題は多岐に渡るため、活動を継続・展開していくことで達成していく取組もあります。 長期的視点も踏まえつつ、今私たちに何ができるのかを、メンバーで協議しながら焦点化させていくことに苦労しています。 メンバー（当事者、家族、専門職）は、自分の仕事を持つ中での活動であるため、会議は20：00～22:00が基本であり、SNSツールやオンラインシステム等を活用しています。全国に散らばるメンバーと共に協議を進めるプロセスに苦労はありますが、多地域、多方面のメンバーで構成されているからこそ可能になる課題の達成に向け取り組んでいます。		
取組の効果	1つ目は、「吃音のある中高生への支援」です。教員向け啓発動画及びリーフレットの制作発行をし、モデルエリアでの中学校・高校への配布や全国の中高生を対象とした交流会を開催しました。これらの取組は新聞にも掲載され、文部科学省に協力体制づくりへの提案も行っています。2つ目は、「就労問題・企業への理解促進」です。就職を目指す吃音当事者向けサポートブック及び企業向けのリーフレットを発行し、全言連加盟団体を通じて広く配布しています。今後、厚生労働省や就労支援機関、大学等との連携を進めたいと考えています。 3つ目は「吃音啓発」です。幼児期・学童期用の啓発リーフレットの改訂や、他の音声言語障害当事者会との交流や連携、3歳児健診を吃音支援に繋げるためのソーシャルアクション等を行い、吃音を広く「知ってもらう」ためのスタートアップに取り組んでいます。4つ目の「吃音と手話」では、リーフレットの制作・配布等、ろう者の方々と協力して暮らしやすい社会の実現に向け取り組んでいます。全ての取組は、今後、さらに効果をあげていくために、国の機関とも連携・協働していきたいと考えています。		

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 （概ね3～5歳）	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 （中卒・学業中退者18歳～34歳）	中年層 （35歳～64歳）	高齢層 （65歳～）	年齢や属性を問わない
		●	●	●	●	●		●	●	●	1



中学校・高校の先生方へ

先生たちに 知ってほしい 吃音のこと

NPO法人全国言友会連絡協議会社会的支援推進委員会は
中学・高校の担任の先生向けのリーフレット・動画を作成しました。
無料でダウンロードできますので、ぜひご活用ください。



リーフレット

(全国言友会吃音のある中高生交流会HPからDL)



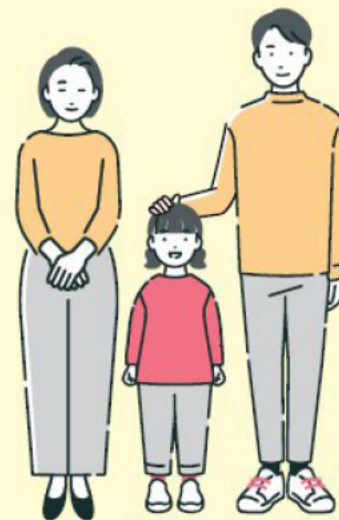
動画

「先生たちに知ってほしい吃音のこと」

【問い合わせ先】東京都府中市立住吉小学校きこえとことばの教室（電話：03-631-6319）

↑取組で作成した中高生向け啓発動画とリーフレット

お子さんが どもりはじめたら



NPO法人全国言友会連絡協議会
社会的支援推進委員会

幼児期の保護者・園の先生方へ

↑幼児期の保護者や先生向けリーフレット

↓小学校先生向けリーフレット

吃音のある子どもが クラスにいたら



NPO法人全国言友会連絡協議会
社会的支援推進委員会

小学校の先生方へ



↑他の音声言語障害当事者の会との連携（吃音、場面緘黙、発声障害、失語症、喉頭全摘出後の方々）と交流

↓吃音のある人の就労支援
サポートブックの発行



2024年6月（初版） 発行 / 全日本社会福祉推進委員会 製作 / 広島市国語・聴覚言語支援センター 監修 / 山崎利子（言語聴覚士）

企業の力に変えていく 吃音のある人が持てる力を発揮して働くために

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、その言葉がスムーズに出せない症状を吃音（きつおん）と言います。（一般的に、「どもる」とも言います。）
本リーフレットは、吃音のある人がその能力を十分に発揮し、円滑に業務を遂行するために事業者ができることについて解説したものです。

吃音はこんな症状

言葉の一部をくりかえす
回避

言葉の一部をひきのぼす
伴発

言葉が出ないままに
断発

随伴症状
言葉を出そうと力んだり、体の一部（顔や手、足など）の動きが伴ったりすることがあります。

時期によって変化する

- 吃音が多く出る時期、少ない時期があり、症状の出方は変化します。
- 話す場面によっても変化し、ふだん流暢に話せていても電話や発表の時にはどもるということもあります。
- 出しやすい音と出しにくい音があり、吃音のある人によって異なります。
- 自分でも吃音がいつ出るのか、はっきりと予測することができません。

吃音の豆知識

どれくらいの割合？…… 吃音のある人は100人に1人とされています。（国内では約120万人）
原因は？…… はっきりと解明されていませんが、生まれ持った吃音になりやすい体質的な要因が大きく関与しているとされています。本人の気が弱いからなるのでも、育てられ方に問題があったからでもありません。
治療法は？…… 確実な治療法は確立されていません。
吃音のある著名人は？…… 江崎玲於奈（ノーベル物理学賞）、大江健三郎（ノーベル文学賞）
 小倉智昭（アナウンサー）、重松清（作家）
 ジョー・バイデン（アメリカ大統領）、田中角栄（元首相）
 ハメス・ロドリゲス（サッカー選手）、細田守（アニメーション監督） など

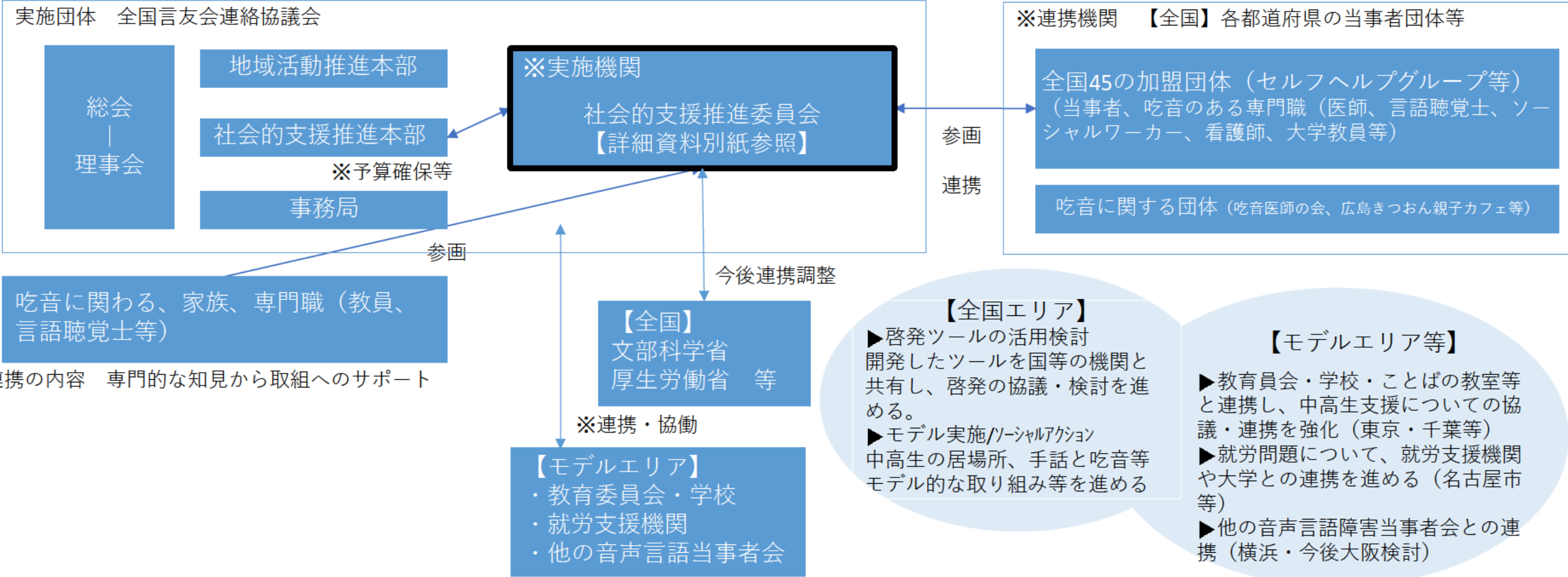
↑企業向け、吃音のある人の理解を啓発するリーフレットの発行

社会的支援推進委員会 実施体制

吃音者の孤独・孤立を防ぐため、大きく4つのテーマ（中高生支援、就労支援、吃音啓発、手話等）毎に部会を設置して、新たな啓発ツールの開発や場の創出、ソーシャルアクションに取り組んできました。

- ※実施機関の役割と活動内容など
- ・啓発ツールの開発（動画・リーフレット等）
 - ・モデルエリアでの啓発活動
 - ・モデル的な居場所開発・連携活動等
 - ・ソーシャルアクション（3歳児検診）

- ※連携機関の役割と活動内容など
- ・開発した啓発ツール等を活用し、モデルエリアでの啓発や協議協働の実践を進めていく。



全言連の加盟団体正会員（45団体）

北海道・東北ブロック（4団体）

北海道言友会
岩手言友会
宮城言友会山
形言友会

関東ブロック（7団体）

茨城言友会
栃木言友会
群馬言友会
埼玉言友会
千葉言友会
東京言友会
よこはま言友会

中部ブロック（12団体）

にいがた言友会
富山言友会
石川言友会
福井言友会
やまなし言友会
信州言友会
岐阜言友会
しずおか言友会
名古屋言友会
どーもわーく豊
橋言友会
三重言友会

関西ブロック（8団体）

京都言友会
すたっと京都
おおさか結言友会
神戸言友会
姫路言友会
奈良言友会滋
賀言友会和歌
山言友会

中四国ブロック（7団体）

島根言友会
岡山言友会
広島言友会
香川言友会
徳島言友会
愛媛言友会
高知言友会

九州・沖縄ブロック（7団体）

福岡言友会
北九州言友会
さがんすた熊
本言友会大分
言友会
言友会宮崎の「わ」
かごしま言友会



清掃活動を通して人と人とが繋がる【官民連携】

事業の実施機関	NP0 クリーン&コネクト和歌山
対象地域	和歌山市

法務省（広報の連携、啓発グッズの提供）、厚生労働省（スマート・ライフ・プロジェクト参画）、国土交通省（ごみの処理）、環境省（広報の連携）、関西広域連合（広報の連携）、和歌山県（ごみの処理、広報の連携）、和歌山市（ごみの処理、広報の連携）、和歌山県教育委員会（学校への周知）、和歌山市教育委員会（学校への周知）、認定特定非営利活動法人わかやまNP0センター（イベント共同開催）、一般財団法人和歌山環境保全公社（広報の連携、啓発グッズの提供）、社会福祉法人和歌山市社会福祉協議会（広報の連携）、公益社団法人和歌山県青少年育成協会（広報の連携）、公益財団法人和歌山県人権啓発センター（広報の連携）、特定非営利活動法人わかやま環境ネットワーク（広報の連携）、和歌山県中小企業団体中央会（広報の連携）、東洋大学（応援メッセージの提供）、和歌山大学（広報の連携）、和歌山大学附属教育学部附属小学校（広報の連携）、JAわかやま（広報の連携）、株式会社豊工業所（イベント共同開催）、和歌山県立北高等学校（広報の連携、活動への参加協力）、株式会社オークワ（イベント共同開催）、精華学園和歌山校（イベント共同開催）、社会福祉法人喜成会（イベント共同開催）、和歌山市老人福祉施設協議会（イベント共同開催）、和歌山県BBS連盟（イベント共同開催、情報提供）、和歌山ユネスコ協会（広報の連携）、日本たばこ産業株式会社（活動への参加協力）、和歌山縣ヘルス工業株式会社（活動への参加協力）、日本製鉄株式会社（活動への参加協力）、旭食品株式会社（活動への参加協力）、株式会社積水ハウス（活動への参加協力）、株式会社昭建（活動への参加協力）、紀の国住宅株式会社（活動への参加協力）、SMBC日興証券株式会社（活動への参加協力）、ソフトバンク株式会社（活動への参加協力）、株式会社宮本工業（ドリンクの提供）

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031800/gomizero/nintei19.html>

取組の実施期間	令和3年6月～
取組の内容	清掃活動を通して人と人をつなげる場を提供しています。人と人とのつながりが希薄化していたコロナ禍の2021年に4人でスタートした清掃活動ですが、今では子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が参加してくださっています。継続を大切に、無理のないように時間は1時間と決めることで気軽に参加のしやすい環境にしています。定例活動日の毎月第1日曜日朝9時に和歌山城に行けば、誰かがいるという状況にしています。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	最初のごみの処理問題に頭を悩ませました。公共な場所の清掃活動をしているので、行政と連携してできないかと考え、行政にごみの処理のお願いに説明に行きました。また幅広い方に参加していただけるように行政のホームページに掲載やまた、行政、民間企業・団体にポスター掲示していただくなどいろいろな連携を進めていくのに苦労をしました。特定の民間団体とだけ連携できないという言葉に悩まされましたが、乗り越えました。
取組の効果	子どもとゆっくり話す時間を持つことができるので貴重な経験となっていますという感想をいただいたり、最近学校に行っていないんですと心配する親御さんから掃除に参加しているうちにまた学校に行き始めましたというお話も聞きました。また、清掃活動に参加することで、健康長寿で大切な要素の社会参加をし、幅広い年齢層のいろいろな方との交流でき、望まない孤独・孤立の予防になっています。

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

42



和歌山市市民公益活動登録団体
クリーン&コネクト和歌山
ボランティア
大募集！

みんなの力で
和歌山をきれいに！

町内会
 サークル
 団体
 高校生
 大学生
 親子
 友達同士

人と人をつなげる

活動日程は
こちらから

団体LINE公式アカウント

●活動内容
和歌山市内の清掃活動

●活動場所
紀の川等河川敷、和歌山城など

●募集期間
随時募集中

(この活動への参加は自己責任となっています)

お申込み・お問い合わせは
クリーン&コネクト 和歌山
 Gmail : cleanconnectwakayama@gmail.com
 LINE公式アカウントからでも募集中！！

「わかやまごみゼロ活動」登録団体 ※中学生以下は保護者の同伴を必要とします